

“道徳授業「ガラスの地球」の感想(1組)”

大宇宙に浮かぶ地球は奇跡のような豊かな生命が満ち溢れている。この地球の歴史の中では新参者であるはずの人間は、「万物の霊長」と自賛し自然破壊、動物殺戮を行っている。人間が豊かさを求めた結果、作り出した地球の危機は、今個人のレベルまで「不安」となっているしかかっている。もしも地球を外から見る事ができれば、人間は「霊長」ではなく、はかない存在であることが分かるはずである。



授業の感想

『この話を読んで気になったことが二つあります。一つ目は**地球の危機**です。いつ地球は無くなるのかなと、でもどうせまだ先だろうとも思っていました。ですが、この話を読み地球がいつ無くなってもおかしくないことに気づいたのです。戦争は無くなりつつありますが、殺人兵器を作ることは止めてはなりません。いつ戦争が起こるか分からないなかで、「平和」なんてのんきだなと感じました。二つ目は**環境汚染**ということです。環境汚染はなくすことができると思っています。人々が日々環境について考え、大事にすることでなくすことができるのではないかと思います。ですが、それには一人一人が協力しなければなりません。今の環境で世界中の人々が協力なんてできるはずはないと思います。今後世界中の人々が協力し、世界をきれいにしていきたいなと思いました。』

『この文章を読んで、私はもっと地球を大切に生きていこうと改めて思いました。今の地球についての問題は、ニュースなどでも良く取り扱われていて有名だったので、よく知っていました。ですが、そこまで状態が進んでいるとは思わず、つい最近ではニュースに出ていないからと気を緩めて生活していました。ニュースで扱われていないからと言って気を緩めず、個人個人で解決できることをしたいなと思いました。私自身が未来のためにしたいことがいくつかあります。まずは「ポイ捨てなどをせず、ゴミは分別すること」です。ゴミは分別するだけで、環境が少しでも良くなると思うし、自分でも簡単にできるので続けたいなと思いました。あとは、食べ残しをしないことです。私は好き嫌いがとても激しい人なので、頑張って苦手なものを無くせるようにしたいです。一人一人が生活を変えていけば、より良い地球になっていくと思うので、みんなで声を掛け合って良い地球へと変えていきたいです。』

『今までにも何度か地球の環境などの勉強はしてきたし、自分たちができることを考えることもしてきました。でも、やはり地球を守るには個人の力ではどうにもならないだろうという思いがあり、せっかく地球を守るためにできることを考えても、次の瞬間には忘れて結局実行できませんでした。でも、この文章を読んで、こうして私たちがゆっくり過ごしている間にも、どんどん地球の危機は迫ってきているのだと感じました。だから、まずは地球環境に対しての意識を変えて現状を知り、自分たちが住まわせてもらっているこの大切な地球を自分たちの手で壊してしまわないように、できることを考え、実行していかねばいけなないなと思いました。』



よのなかルール 32 <「メシを食べる大人になる！よのなかルールブック」高濱正伸監修>

「自分はひとりで生きられる」なんてかんちがいしない。」

人間は、寄り集まって、頼ったり助けたりして生きていく生きもの。
「みんながいてこそ自分がいる」ということを忘れないように。